

平成27年度 常葉学園中高等学校 学校評価

(評価基準は A:十分達成できた ,B:概ね達成できた ,C:ある程度達成できた ,D:あまり達成できなかった と考える)

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の意見
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	B	先生方の負担がないように、様様な面に気配り仕事をした。同じ係りの先生にやり方を教えてもらいながら行った。自分の責務は誠意をもって果たした。メンバーが大きく変わり、引継ぎが出来ていないところもあり、早めに取りかかった。いろいろ工夫して作業の円滑化を図った。わからないことは課長と相談してから取り掛かった。HPを本校のPRになるように作成した。問題行動の予防に努め、生徒のマナー向上を意識させた。委員会活動に力を入れた。小論文、進路希望調査については、HR担任とコミュニケーションを密にして、円滑な集計等を行った。看護医療模試を問題なく行う事が出来た。 各自の仕事内容の把握に努め、円滑な分掌運営を心がける必要がある。早めに要項を出し、確認・点検をすることでミスを防ぐ。若い人たちを育てるために、仕事を振り分け、ベテランがアドバイスできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で漢字検定に取り組んでいるが、日本語検定を取り入れる予定はあるのか。現在、日本語検定を取り入れている学校が多くなっているようだ。(学校)検討します。 ・橘小生徒が授業体験に来た時に、本校生徒が楽しく授業を受けていた。この様子から教師と生徒との人間関係が良いと感じた。生徒が目的意識を持って学校生活を送っている雰囲気があった。 ・森理世さんの講演会に参加したが、楽しそうに生徒は聞いていた。ただ何人かの生徒がうつむいていて気になった。(学校)そういう生徒には声を掛けるようにしたい。また、特別支援会議で各学年数人あがってくるが、特別指導やカウンセリングの必要がある生徒もいる。 ・コース・系統別に1年生から分かれているが、途中から変更できるのか。(学校)1年から2年になるときに変更はできる。1年時の体験や成績をもとに変更する生徒が毎年10人前後いる。2年から3年になるときに変更する生徒はいない。1年時の体験が生かされていると思う。
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	A	副担として担任のフォローが出来るように気を配った。生徒の進路決定を目指し取り組んだが、後手に回ることもあった。学年会議を大切にし、各教員の役割分担、仕事の進捗状況に気を配った。主任と相談しながら、自分のクラスを責任もって指導した。情報の共有を心がけた。自分の役割以外でも協力できた。全員が一丸となって学年統一の意識を持ち、皆で協力し合えた。学年通信の作成、学年行事の運営に携わった。他教員と協力して、早めの準備に努めた。中等部教員が協力的で働きやすかった。 3年部の進路課職員が少なかった。4人は必要。分担された仕事はこなしたが、余裕がないため、プラスαの仕事が出来なかった。3年間の流れをイメージしながら、他学年の状況を見る。生徒の実態を把握し、コミュニケーションをとりながら、新しい取り組みをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修にたくさん参加したと報告があったがどのような研修に参加したのか。(学校)県総合教育センター…「ディベートの活用」をGSコースに 中高一貫校(浜松西、清水南) 浜松湖南…英語教育 総合文科系の系統別講座をリニューアルするため静岡市女性会館との連携を進めている。各予備校主催の研修に多数の教員が参加した。
	3	コース・系統運営	コース・系統の組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	A	コース特有の行事や課題があり、他の先生方と協力してできた。夏休みの保育園実習、ダンス発表会等の準備、指導ができた。ALTとの関係に配慮するが、自分の意見も言うように心がけた。学年団の情報交換が十分であったが、、他学年との情報交換が不十分であった。保育コースは他学年とも協力が出来、学年問わず情報の共有化ができ、他学年からアドバイスももたらえた。同一歩調で行う事が出来た。全体を把握しきれず、自分のクラスの事だけで精一杯であった。外部講師との連絡を取り、支障がないように、講座運営を心がけた。系統別な予算を立て、活動しやすい環境をつかった。イギリス研修は旅行会社や地域と連携し、学習効果の高い研修ができた。 総合文化は、他のクラスより汎用性が広く、生徒の意識、能力に開きがあり、対応に苦労した。具体策を考えたい。総合文化コースの系統別講座は、検討が必要と思われる。	
	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	研修に参加し、内容を教科会議で報告した。自分の役割分担は確実にこなした。早めの準備を意識した。入試問題作成が計画的に正確に進むように、先を見越して予定を立てれた。教材等を共有し、進路を合わせて進められた。英語科行事の運営方法をデータ化することで、引継ぎが円滑になるようにした。英検のリスニング補習、3年の補講等積極的に行えた。学力向上を目指すために個別指導に重点をおいた。教科会議で積極的な意見交換をした。他の職員との情報共有を心がけ資料の配布などを行った。体育教官室がないため、教師間の連絡がとりにくかった。使用した文書類をデータ化できた。読解力や自ら考える力を身につけさせた。 協力してできたが、特定の先生への負担が大きくなってしまったため、ある程度平等に分担したい。組織が変わっても対応できるように引継ぎを行いたい。漢検対策を国語科だけでなく、全員で取り組みたい。	

(評価基準は A:十分達成できた ,B:概ね達成できた ,C:ある程度達成できた ,D:あまり達成できなかった と考える)

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の意見
学習指導・教務関係	1	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	A	<p>役立つ知識を伝える事が出来た。国語・古典の魅力や純文学作品の読み方を教える事が出来た。「しっかり丁寧に教える」ことを考え、ポイントを明確に教えた。話題を導入し、学習内容と関連付けた。グループワークで意見交換、発表をして生徒同士の活動を増やした。感想と学びのポイントを1時間ごと書かせた。そのクラスに合った指導法を考え、教材を準備した。単元ごとに確認テストを行い学習の定着に努めた。積極的に研修に参加し、授業力向上に努めた。運動嫌いな生徒を少なくするように努めた。初期指導に重点を置き、基礎学力を身につけさせた。映像をとり、生徒にどこを改善すればよいかわかるようにした。保健では新聞・ニュースなどを活用した。体育では県の平均タイムなどを参考に目標を立てさせた。GSでは、会話活動にミニプレゼンテーションを加えた。毎日宿題を出し、家庭学習の定着を図った。</p> <p>授業アンケートにもとづいて、授業内容の改善を試みる。視聴覚教材の利用やアクティブラーニングの実践を試みる。美術コースの実習には改善が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーチャイムで生活しているという事だが、生徒は時間をまもることができているのか。できているとすれば、自分たちで考えて行動できているということで、素晴らしいことだと思う。(学校)時間をも持って生活できている。 ・授業において、専任、非常勤ともに共通意識を持って取り組んでいるのか。授業内容や授業態度の統一指導は難しいのではないのか。 (学校)同じコース間では各教科で連携はとれている。授業態度の悪い生徒は女子校という事もありほとんどいない。何かあった時は担任と連絡を取りあい、統一的な指導が出来ている。 ・授業力の向上という事で授業ではどういうところを工夫しているのか。 (学校)1時間の授業の中で、どこにヤマ場を作るかを常に考えて授業をしている。ペーパーワーク等を取り入れて積極的に参加し、自分の考えを持つという授業を心がけている。 ・朝読書がどのような形でおこなわれているのか。橘小では、司書教諭が読書カードを冊数によって色を変えたり、読み聞かせ、仲良し読書、読んだ本の感想や紹介等を行い、読ませる工夫をしているが、どうしていますか。 (学校)特に工夫はしてなく、担任任せである。担任によっては、担任が紹介しているクラスもある。また、今現在、女性として読みたい本40冊をピックアップして教師の推薦する本の紹介冊子を作成している。来年はこの冊子を活用して推薦図書として読ませていきたい。読書カード等も作り、図書館での貸出等も調べたい。
	2	授業規律	私語や居眠り等を放置せず、落ち着いた雰囲気を作って授業が実施できたか	A	<p>ペアワークや音読等を行った。ノート点検を定期的に行った。その場に合った指導を行い、50分間集中させた。しっかりやるときと、楽しむときの切り替えから授業の雰囲気をつくった。全体の場で注意したり、机回巡視の時に個別に注意した。パターン化しないようにし、質問しやすい雰囲気をつくった。授業中のルールや宿題回収を徹底した。体育では怪我や事故防止に努めた。学習環境を整備し、挨拶や受ける姿勢を身につけさせた。居眠り等はそのまますぐに注意する。黒板を向いて授業をしないように、生徒と対話を意識して行った。生徒のつぶやきを大切に発表させた。チャイムが鳴らないので、早めに教室に行くことを心がけた。授業が始まったら各自始める課題を与えており、習慣づいた。</p> <p>担任・教科担当・非常勤との共通意識を持つ。ペアワークを好まない生徒に対しての配慮も必要。自ら参加できる雰囲気をつくるように心がける。</p>	
	3	欠席・遅刻抑止	遅刻・欠席が多い生徒の状況把握や改善への働きかけができたか	A	<p>気になる生徒には一言でも声を掛けるように心がけた。多い生徒にはカウント表をつけさせ、出席するように働きかけた。保護者と連絡を取りあい指導した。学年会議で名前が挙がった生徒は、担任を通じて、指導の手を打った。中学の教員全体で情報共有ができています。本人との会話を増やした。学年の協力も仰いで指導できた。健康管理の大切さを話した。担任とのコミュニケーションを密にし、生徒の状況を把握した。不登校の生徒にノートのコピーを送ったり、家庭訪問に行ったり、保護者とはほぼ毎週連絡を取っている。遅刻の累積者へ危機感を持つ指導をした。状況に応じて医療機関への相談を促した。具体的な数字を示し、今後の対策を話し合った。原因と改善点を生徒本人と話し合った。粘り強く説諭することで改善が見られた。</p> <p>時間差登校の徹底を図りたい。未来手帳を利用して、自律できる生徒を育てたい。不登校の生徒についての対応の仕方。</p>	
	4	読書指導	朝読書が落ち着いてできるよう、クラス内の雰囲気作り(担任)、遅刻者指導(副担)を徹底できたか	A	<p>落ち着いて読書する時間の大切さを伝えた。朝読書を早めに始めるように呼びかけをした。代表委員を中心に呼びかけを図っている。教室に様々なジャンルの文庫本を置き、多くの作品に限られる環境をつくった。授業で扱った作品や古典も取り入れた。教師自ら率先して、読書を始めた。担任が8時30分には教室にいけるようにする。読書の必要性や楽しさを伝えた。読書指導を通じて、落ち着いた生活が送れるように心がけた。正門前で遅れないように呼びかけた。机周りの片づけを徹底させ、整った環境で落ち着いて読書するように促した。最初落ち着かせることに苦労したが、軌道に乗せて読書環境を構築できた。現在は定刻前から読書を始めている。</p> <p>今後、朝読書の形骸化しないように工夫する事が必要。やらされているという意識をなくし、自ら読書するという姿勢を身につけさせたい。</p>	

(評価基準は A:十分達成できた ,B:概ね達成できた ,C:ある程度達成できた ,D:あまり達成できなかった と考える)

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の意見
生徒指導・総務関係	1	生活指導	服装・頭髪等の違反者の生活指導や、言葉遣い、挨拶などマナー教育が徹底できたか	A	「社会に出しても恥ずかしくない生徒を育てる」ということで、言葉遣いや態度を注意した。挨拶は自ら手本になるように努めた。気が付いたところで注意している。言い続けることが必要。学年集会や学年通信で注意喚起した。教師として常に丁寧な言葉遣いを心がけた。風紀検査の時だけでなく、通常時も意識を持たせるために呼びかけをした。生徒となれ合いにならないようにした。服装・頭髪において女子高生らしさを強調し指導した。気になる生徒には積極的に面接をした。挨拶月間を設定し、挨拶チェックを実施した。SNS系の指導は水面下で深刻化するため発見が難しい。 担任・非常勤との共通意識が必要。見逃すことなく、全職員で見逃すことなく注意したい。マナー等は職員室では徹底できるようになったので、職員室以外でもできるようにしたい。教師の言葉遣いも直す必要がある。	・防犯について、不審者への対応をしっかりとする必要がある。橘小では、監視カメラを各箇所に設置し、さすまたを各教室に1本ずつ置いてある。また、中央署の警部に来てもらい防犯訓練(不審者対応)を行っている。不審者役を警察官にやらせるとなかなか捕まえる事が出来なく、いろいろなアドバイスももらえて参考になった。(学校)さすまたは職員室(中学・高校)にそれぞれ2本ずつ設置してある。不審者対応の訓練は今後考えたい。 ・小学生でも携帯電話・スマホの問題は起きている。罪の意識なく、写真などを簡単に掲載してしまう児童・生徒が多い。保護者同士のトラブルも起きている。情報モラルの教育が必要である。 ・教師と生徒がラインでやり取りをしている学校があり、教師になりすまして連絡を送り、被害を受けた生徒がいた。教師と生徒との間でラインやメール等のやり取りが無い方がよいのではないかと。(学校)ラインやメールでのやり取りは原則認めていない。教師の個人情報にも関係してくるので公開していない。ただ、部活等で、電話番号を教える教員はいる。 ・SNS関係で被害にあう場面が誰にでも起こりうるので、疑似体験をさせた方がよいのではないかと。(学校)情報等の授業の中で検討します。 ・おとなしく真面目そうな生徒が多く、外で見かけても、制服の乱れている生徒はほとんど見たことがない。また、学校の中では生き生きと活動している様子が見えなくなる。(学校)ありがとうございます。ただ、外部からの苦情が全くないわけではないので、これからも指導していきます。
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	B	リーダーというポジションを与え、生徒だけで動ける環境づくりをした。生徒が提案・協力しあえる雰囲気を大切にし、リーダーに挑戦しやすいようにした。行事の重要性を伝え、協力させている。声掛けをしたら、主体的に動いてくれた。行事になれる事、上級生の指示に従いながら自分で考えて動くことを教えた。生徒の動きを見てアドバイスするに留めた。陰でサポートできた。各行事に対しての雰囲気づくりに力を入れた。生徒会中心に事前準備ができた。生徒に責任感を持たせるようにした。自分たちで考えさせ、自発的に行動させた。全員がリーダーであることを行事の前後に指導した。生徒一人一人が自分の役割を認識し、リーダーに協力させた。 消極的な生徒が多く、どのようにリーダーとして育成していくのか。特に目立たない生徒の活躍の場も作るべき。行事ごとの目的を明確に生徒に伝え、生徒に任せて待つ姿勢を持ちたい。	
	3	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	A	生活環境を整えることが基本であることを訴え、美化に努めさせている。ルールを守れないクラスに対しても適切な言い方で指導できた。清掃箇所に行き声掛けをした。放課後教室の見回りを行った。清掃時間の巡回と清掃委員中心に無言清掃を呼びかけている。教師が一生懸命掃除をする姿勢を見せることで、生徒もしっかり行ってくれた。清掃活動を通し、責任を果たすことの大切さを指導した。ほうきの掃き方や雑巾の拭き方などを最初に指導した。点検をしてから終わりにしている。分担を細かくし、責任を持って取り組ませている。清掃班ごとの責任者を決め、帰りのSHRで発表させている。清掃が不完全な場合は、やり直しをさせている。指示を出すと動くが、自分で仕事を見つけた、動ける生徒が少ない。 放課後の教室の見回りを行いたい。全員が自主的に動けるような工夫をしたい。	
	4	貴重品管理	朝のSHR時に貴重品提出を徹底できたか。記録用紙に未提出者を記録したか	A	貴重品を出すことの意義を伝えた。誰が提出したか記録の確認を行った。提出忘れが無いように声掛けをしている。部活の時間も預けさせた。担任のいるところで係りに回収と記録させている。抜き打ちで確認している。列ごとに小袋を配り回収している。担任の目の前で提出させている。グループごとに回収している。未提出者には個別に呼んで注意した。 盗難が無いことで、危機管理意識が薄れないようにしたい。盗難が起きないように貴重品・携帯等の全員提出を目指したい。	
	5	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	B	授業の中で防災の事に少し触れ、意識を向上させた。私物の管理をしっかりさせた。地域防災訓練への参加を呼び掛けた。夜道の行動や、「もしもの時」の行動を例を挙げて話した。情報を伝達した。防災講演を利用して話をした。防犯教室、防災講演、避難訓練を行い、意識を高揚させた。話し合いをグループワークで行った。年度当初に避難経路を理解させた。登下校や家出の対応についても理解させた。ニュースをチェックし、その事件の原因を考えさせた。 避難訓練を年度の最初に行いたい。事件や災害が無いことで、危機管理意識が薄れないようにしたい。防犯教室はおこなっていたが、防犯訓練は行っていないので、行いたい。	
	6	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	A	活動内容に新たな取り組みを加え、生徒が生き生きと活動できるように工夫した。礼儀指導やリーダーの育成など心がけた。生徒の自主的な活動に任せきりになってしまった。終了時には顔を出すようにしたが、コーチに任せきりで指導が不十分であった。放課後はできるだけ指導にあたった。生徒会役員の呼びかけで、様々な取り組みができていく。練習はコーチに任せているが、昼や帰りの報告を徹底させ、状況を把握している。コーチと連絡を密にする。橘高校の練習に積極的に参加している。コンクールに向け演奏面だけでなく、協調性や責任感、規範意識を育てている。生徒会はボランティア活動等、活動の場を広げた。健康状態を把握し、事故なく積極的に活動できた。父母会の役員との連絡や会計処理の打ち合わせを適切に実施した。部活を通して学べることを生徒に伝達している。生徒とともに活動内容を考え運営を行った。「挑戦」「己に克つ」事を本気で取り組んだ。 専門でない先生が多く、コーチをつける必要がある部活がある。また、コーチとの連絡を密にしながら運営しなければならない。	

(評価基準は A:十分達成できた ,B:概ね達成できた ,C:ある程度達成できた ,D:あまり達成できなかった と考える)

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の意見
進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	A	<p>管理栄養士の資格をいかし、食品系の大学に進む生徒へのアドバイスや面接指導を行った。個々に面談を行った。「より高きを目指す」事を意識させた。進路ノートの点検を頻繁に行った。一人一人のニーズに合った指導まで至らなかった。学年集会や学年通信で、訴えたいことを伝えた。高校のコース・系統の説明をしている。志望動機の書き方や入試対策を行った。一人一人をよく見てよく話を聞く。講師の先生からの話しをできる限り生徒に伝えた。模試や定期テストの結果を資料として活用。一人一人にファイルをつくらせた。受験前の面接指導を積極的に行った。自分が興味を持っていることを考えさせた。学習到達ゾーンを意識させた。生徒に情報提供した。自分の将来を自ら考えられるよう指導した。</p> <p>明確な進路目標を掲げられない生徒が多いので、情報提供をしっかりと行いたい。また、個別に話す機会を設けたい。</p>	<p>・系列の大学への進学が多いという事で、学力分析をする以前で進路が決まっているという事で、学力分析がCという判定になっている。進路実績を残しているわけだから、Cという判定ではないと思う。偏差値を出して対策をとることだけが学力分析ではない。その生徒の進路実現のためにどのように働きかけ、達成させていくのかが大切であり、十分できていると思う。判定はAもしくはBでもいいと思う。B以上に直しておいてください。 (学校)ありがとうございます。判定のCをBに直させてもらいます。学力分析を進路の面からのみでなく、つけたい力がついたかという視点で進めていきます。 ・中学・高校の入学時に常葉大学入学希望者はどのくらいいますか。 (学校)中学入学時では30%前後だが、まだ進路目標は漠然としており、はっきりしているわけではない。生徒の考えというよりもむしろ親の考えである。また、身内の学園のOB・OGのいる家庭が多い。高校入学時では全体では40%位だが、保育、医療、看護を希望している生徒は希望が多い。また、平成29年度より常葉大学の附属中学・附属高校になるということで、約半数(50%)の生徒を常葉大学に進学させたい。と同時に国公立・難関私立大学進学も目指させたい。特にグローバル・スタディーズコースでは目標が高い生徒が多いので上を目指させたい。 ・満足度のアンケートはとっているのか。橘小では無記名(体罰といじめは記名)、読むのは校長と教頭のみということでアンケートをとっているの、いろいろな意見や苦情を聞く事が出来る。保護者の不満を出させる機会をつくっているが、その意見が、改善のアイデアにもなっている。 (学校)中学では満足度のアンケートをとっていない。高校では生徒のみとっている。意見を聞くにはいい機会だと思う。今後検討したい。 ・いろいろな活動が先を見て行われているが、イベント事(行事)も多くて忙しいのではないか。 (学校)特に感じたことはないが、今後検討してみます。</p>
	2	学力対策	授業や補習、朝学習等を通して、生徒の進路達成のための学力向上ができたか	A	<p>問題演習の時間や課題を増やした。入試を意識した授業や補習を行いモチベーションを高めた。小テストをこまめに行った。プラスαの内容を付け加えた。漢字ノート、1Pノート等を提出させ、学力の定着を試みた。目標設定し、計画的に課題を与えた。夏期補習の実施、復習の徹底等で、学力を伸ばした。教科担当者と連絡を密にした。学園内対策補講での結果が良かった。単元ごとの内容の定着に努めた。教材研究に時間をかけ、思考の流れを意識した授業を行った。ノートの取り方や学習方法を説明。放課後の居残り学習を勧めた。情報を提供しながら学力向上につながる工夫をした。学年の進路課を中心に、補習や朝学習の計画を立てさせた。中3生に対して例年以上にテスト対策が出来た。夏期、冬期補習、センター試験の過去問題や英検リスニング等、学習に対する姿勢を身につけさせた。中等部では8:10～8:30までの時間の有効利用が出来た。</p> <p>AO入試や推薦入試で年内に決定する生徒が多く、センター試験や一般入試を受ける生徒が少ない。</p>	
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスをすることができたか	B	<p>生徒に学習計画の反省を書かせた。学年の結果分析をしている時間がとれなかった。的確に読み取り、的確なアドバイスまではいかなかった。面接を行い、学習方法のアドバイスをした。手帳を利用し、振り返りをさせた。テスト直しノートの作成。教科担当に協力してもらい、苦手科目の克服に努めた。反省と次の目標をかかせた。「テスト直し」は小テストの実施を行った。何がどう欠けているのか状況のパターンを紹介・自己分析させた。得点推移を折れ線グラフで生徒一人一人に提示した。個別指導や課題のチェック等を教科担当に依頼した。GTZを正しく理解し、スタディサポートに取り組ませた。情報の提供をおこなった。希望進路と現在の学力とのギャップを意識させ、改善策と一緒にかんがえた。生徒の理解していない苦手な部分を把握した。試験前の面談やテスト個票返しの時にアドバイスをした。</p> <p>学力の伸長度や定着度などの絞った検討から始めたい。結果分析は不十分だったが、本校生徒はそれ以外の力で進学している。</p>	
	4	キャリア教育	系統別講座(高1、2)または土曜講座(中、高3)の目的を理解し、生徒の取り組む意欲を向上させることができたか	A	<p>少しでも生徒に専門的な体験をし、専門的な知識を身につくようにした。ノートに記録や感想を書かせた。活動の記録は重要である。総合文化の内容にもうひと工夫欲しい。まず教員が興味を持って楽しみにしているという姿勢を見せる。資料をしっかりと保管させた。放課後の練習時間の確保が難しい。講師の先生に一任してしまった。生徒の興味や積極性を促した。アドバイスを参考に生徒が活動しやすい環境をつくるように心がけた。学ぶ意義を生徒に理解させたい。講座の振り返りを図った。講座の前に目的を話した。異文化理解や国際問題について考える機会を持たせた。</p> <p>将来の目標や目指したい職業などが見えてこない生徒へのアドバイスを行う。総合文化の取り組みをどのようにしていくか。</p>	
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	B	<p>対策プリントを配りやらせた。呼びかけ、学習方法も伝えた。英検受験を積極的に奨励した。英検2次試験対策もできた。中学は英検・漢検ともに全体で取り組めた。中学では、8:10～8:30の時間に検定前は過去問題を取り組ませた。教科と連携し、面談を行い意識を高めた。ワープロ検定の指導に取り組んだ。一斉漢字検定を夏休みに設定してしまったので、事前指導が徹底できなかった。中学では事前指導と2次対策指導が徹底できた。事前学習の必要性を理解させた。漢字ノートを活用させた。クラス全体の意識が高くなってきた。</p> <p>漢字検定は学校全体で取り組んでいるので、もっと事前指導を行う。資格取得の意義を唱え、奨励したい。英検・漢検以外の資格取得も奨励したい。</p>	
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	A	<p>話しをよく聞いた。希望や計画を考えさせる機会をつくった。必要を感じたら保護者に必ず連絡を入れた。必要に応じて連絡を取ったことで保護者との関係は良好であった。タイミングを逃すことなく対応できた。保護者会や面接を利用して話した。必要な生徒には頻繁に保護者と連絡を取り、情報共有を徹底した。心情に配慮しながら話した。学年団の要請に応じて面談に立ち会い、アドバイスした。面談では、的確な情報を伝えた。親子ガイダンスや進路講話などを通して、進路意識を向上させた。欠席した生徒は必ず電話連絡をした。生活上の問題も保護者と共有して指導した。習慣が定着しない生徒は個別に保護者と連絡を取った。</p> <p>進路指導においてもっと具体的な情報を提供したい。何かあったらすぐに対応できるようにしたい。学校との情報共有に努めたい。</p>	